

令和4年度第3回大和市社会教育委員会議定例会（第32期） 会議録

会議名（審議会等の名称）		令和4年度第3回大和市社会教育委員会議定例会（第32期）
開催日時		令和4年11月28日（月曜日）午後3時00分～午後5時30分
開催場所		文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601講習室
出席状況	委員	10人：伊藤（仁）委員、大川委員、大澤委員、小森委員、齋藤（正）委員、齋藤（道）委員、中山委員、箱崎委員、長谷部委員、丸田委員
	関係各課	3人：文化振興課長、図書・学び交流課長、こども・青少年課長
	事務局	2人：文化スポーツ部図書・学び交流課学び交流係長、同係員1人 学び交流係（259-6104）
	傍聴人数	0人
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由		
		<p>1 会議次第</p> <p>1 報告事項</p> <p>1) 令和5年度生涯学習振興補助金選考結果について</p> <p>2) 令和4年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>3) 家庭教育支援講座について</p> <p>2 協議事項</p> <p>1) 家庭教育支援について</p> <p>3 その他</p> <p>2 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p><開会></p> <p><事務局から配布資料の確認></p> <p><議長挨拶></p> <p><報告事項></p> <p>1) 令和5年度生涯学習振興補助金選考結果について</p> <p><文化振興課長より資料1について説明></p> <p>（議長）では、選考に出席した委員から報告事項はあるか。</p> <p>（委員）それぞれに特色があると思った。大和茶道会は、能と茶道を融合させた企画ということで興味深かった。</p> <p>（委員）どの事案も市民の皆さんに喜んでもらえる内容だと思う。オペラ協会のプレゼンはレベルが高く、胸躍る、わくわくするものであった。</p> <p>（委員）補助金はすべて合わせて100万円以内で、1団体25万円とのことだが、事業の大きさと比較して少ないことはないか。</p> <p>（委員）確かに金額としては1団体25万円だが、会場を優先的に押さえられるなど、補助金以外にも行政からのサポートのメリットがある。</p>

2) 令和4年度社会教育委員に関する研修会等について

<事務局より資料2について変更点の説明>

- ・ 知ることからはじめる人権啓発研修講座は2名出席予定だが、1名体調不良で欠席となる。代わりに1名出席可能であるが、希望はあるか。
→希望者無し。

<委員より、これまでの研修会等の報告事項>

- ・ 県社会教育委員連絡協議会研修会について
(委員) シリウスにてリモートで参加した。国立教育政策研究所の志々田まなみ氏の講演を視聴した。子どもには学校と家庭以外の学びの場、ナナメの関係で成長を支えられる大人が必要であり、地域教育、学校と地域の連携が大切だということを感じた。
- ・ 社会教育委員連絡会議について
(委員) 平塚市の横内地区の取組について、平塚市立横内小学校学校運営協議会委員の鈴木奏到氏の講演を聞き、大変参考になった。街づくりの視点で地域の方と、ふるさとカルタや横内のうたを作るなど精力的に活動しているが、横内以外の地区はこのような活動をしていないので、そこは課題とのこと。
(委員) この活動は地域学校協働活動の一つで、学校と地域が一体となって進めている。厚木市や愛川町は特に進んでいる。
- ・ 県社会教育委員連絡協議会地区研究会(愛川町会場)について
(委員) 愛川町の発表を聞いた。段ボールで作った甲冑を着た方々が登場し、文化の継承について話された。また、人との繋がりづくりのために、人材育成、ネットワークづくり、子どもと地域の方との交流などの事業を行っているとのことであった。

3) 家庭教育支援講座について

<事務局より資料3について説明>

- (市) 資料3の下にページ数が記載されているが、「事業実施結果報告書」の3ページ目に「社会教育委員からの意見」の欄がある。本日の会議ではこちらへご意見を頂き、その上で事業について「継続・一部見直しの上で継続・廃止」のご検討をお願いしたい。では4ページ、当日の写真をご覧いただきたい。まず、丸田議長によるあいさつでは、この講座の趣旨について、社会教育委員、社会教育主事の役割と家庭教育支援事業が父母を対象に行われることについて、事業の目的を踏まえてお話しいただいた。大澤副議長による司会進行で、社会教育主事による講義へ進んだ。前回の講義資料をブラッシュアップし、さらに早寝・早起き朝ごはんガイド(3冊)を配布するなど、受講者へ最新の家庭教育に関する情報提供を心掛けた。また、講義はできるだけ一方通行にならないよう、〇×クイズの実施や、自身で振り返り考える時間、グループワーク・話し合いの時間を組み込み、参加者同士でコミュニケーションの時間が取れるよう工夫したが、感染対策のため話し合いの時間を短くしたこともあり、グループワークの時間が不足している様子も見られた。後半の自然体験学習では、本来約1時間半、中央林間自然の森(つ

るま自然の森)へ行き、フィールドワークを行う予定であったが、大雨のため予定を変更し、最初の1時間は屋内で、講師の佐々木洋氏が持参した写真をスクリーンに映し、自然についてのクイズを出題して受講者とコミュニケーションを取りながら進行することで、楽しみながら植物や生き物について学ぶことができる講義であった。屋内での講義後、外に出て約30分間、林に囲まれたコミセンを一周する自然体験学習を行った。雨が降る中ではあったが、講師の豊富な知識と経験により、普段見落としてしまうような、身近にある自然を見つけながらフィールドワークが行われ、多くの参加者に笑顔が見られた。

(議長) 以上、事務局からの結果報告であり、報告書には「社会教育委員会会議からの意見」の欄があるため、今日の皆さんからの意見をまとめることとなる。事業結果報告書に書かれた内容について、各委員からご意見、ご質問をいただきたい。

(委員) 講座名について、「家庭教育支援講座」としているが、世の中で家庭教育支援への働きかけにについて、政治と宗教の関係等が取り上げられており、誤解を受ける可能性があるため、変更したほうがよいのではないかと。例えば、「地域で家族応援プロジェクト」のように、支援よりも応援という表現が良いのではないかとと思う。

(委員) グループワークでは、積極的に意見を出す家庭が多かったので、もう少し時間があるとよいと思った。参加者同士の交流を求めているというのを今回の講座で感じた。

(委員) コミセンの近くに住んでいる人しか参加していない。コミセンでの実施には限界がある。もっと多くの参加者を集めるのであれば学習センターでの開催も考えていく必要があるのではないかとと思う。また、広報やまとに掲載しても難しいタイトルでは募集してもなかなか集まらないと思う。

(委員) 今回父親の参加が多かったのがよかった。ただし、子どもと一緒に参加できるということが分からなかったので、チラシに親子で参加可と記載してほしいという意見があった。

(委員) 講座の前半は親と子で別々のプログラムを行い、後半は一緒に体験学習という方法もよいのではないかと。

(委員) 広報やまとの記事は小さく、分かりにくかった。自治会の回覧などで周知するのもよいのではないかと。講座名については、先ほど意見があったが、もう少し柔らかい表現にした方がよいと思う。父親が3人も来ていたのは素晴らしいことである。父親も積極的に子育てに参加するようになったのだと感じた。そのような人たちが地域の核となっていくとよいのではないかと。

(議長) 事業結果報告書の内容や評価については修正無しでよいかと。

(一同) 異議なし。

(議長) 次年度以降の家庭教育支援事業の継続については、次の協議事項である「家庭教育支援について」の方向性が決まるまで保留としたいがいかがかと。

(一同) 異議なし。

3) 家庭教育支援講座について

<事務局より資料4-1、4-2について説明>

(市) 前回9月の臨時会時点の提言書(案)では、今後は活性化会議が家庭教育支援の中心を担ってほしいという内容で整理されていた。しかし、現状の活動状況の把握が不完全とのご意見をいただき、まずは、活性化会議について現状把握したうえで進めていく必要がある、その上で提言の方向性も大きく変わる可能性について話をさせていただいた。前回の臨時会后、活性化会議を所管することも・青少年課に聞き取りを行ったので、簡単にご報告する。大和市家庭地域教育活性化会議は、それまであった児童生徒指導連絡協議会を発展的に解消し、平成14年に設立された。目的は、地域の特色を活かし、学校・家庭・地域が一体となり、連携・協力を図りながら青少年の育成を推進することである。資料4-1をご覧ください。こちらはコロナ前、令和元年度の活性化会議の各地区における主な活動内容である。それぞれの地区で活動内容や時期は異なるが、ほとんどの地区で毎年同様の事業を実施しており、現在の活動を継続することで手いっぱい地区が多いとのことである。また、参加される方も自治会や青少年指導員、PTAなどの業務を兼任されている方が多く、地域人材、担い手不足の状況について話があった。このことから、家庭教育支援講座を活性化会議が中心となって新たな取組として担っていくことは現状では難しいものと考えている。以上を踏まえ、議長に作成していただいた提言書(案)をベースに、資料4-2のとおり事務局で素案を再構成させていただいた。

(市) 補足説明させていただく。基本的には、子ども・青少年課が家庭地域教育活性化会議を所管しているが、指導室、図書・学び交流課を含めた3課でサポートをしている。現状としては、コロナ禍ということもあり各地区思い通りの活動ができていない。各地区で自治会、PTA、青少年指導員の方々が集まって活動しているという中で、活性化会議自体で新しいことに取り組んでいくことまではなかなか手が回っていないが、中にはとても積極的に活動している地区もある。市としては各地区に年間153,000円の補助金を出して活動をサポートしている。どの地区も取り組んでいる一番イメージしやすい活動は、子ども110番の家である。子どもが事件や事故に巻き込まれないようにすぐ駆け込めるような施設として、家や店舗などにご協力いただき黄色いプレートを掲出している。その子ども110番の家の更新や新規開拓を各地区にしている。

(議 長) では「1 はじめに」についてご意見はあるか。

(委 員) 13行目の表現について、必ずしもそうではないと思うので変えたほうがよいのではないかと。

(委 員) すぐ後ろの表現についても、断定するような表現になっているため変えたほうがよいのではないかと。また、3行目の表現も「お兄さん・お姉さん」に変えた方がよい。

(委 員) 12行目を「育児不安を抱えている親が増える等の課題がある」

にして、それ以降は削除してもよいのではないか。

(委員) すべて削除するとわからなくなってしまうので、「そうした保護者」の部分のみ削除でよいのではないか。

(議長) 頂いた意見をもとに、事務局と検討する。続いて、「2 役割」についてご意見はあるか。

(委員) 「家庭」の中の表現に違和感がある。

(委員) 「人づきあいが苦手な親は」という表現に変えてはどうか。

(委員) 親がスマホばかり見ていて子どもと話さないというのも家庭での問題である。

(議長) 表現については、事務局と検討する。続いて、「3 現状と課題」についてご意見はあるか。

(委員) 活性化会議として表彰等、評価される場はあるのか。

(市) 活性化会議のメンバーは、それぞれの所属する組織を背負ってきており、表彰等される機会は、活性化会議の方に対してでは無く、青少年指導員、母親クラブ、子ども会などの方に対してはある。

(委員) 活性化会議として評価される場がないと、衰退していくのではないかという懸念がある。

(市) 活性化会議に対してというよりは、社会教育や家庭教育に貢献される方の表彰等について、もっと充実させていくという方向性でご提言いただくということもよいのではないか。

(議長) 「4 モデル事業の実施」については今まで我々が実施してきた事業のことなのでこのままでよい。「5 事業実施による成果・課題」についてもこのままでよいか。

(一同) 意義なし。

(議長) 続いて提言1～3について、何かご意見はあるか。

(委員) 提言2について、具体的な方策はこれだけでよいのか。いくつか具体案を挙げないと、児童館は何をしていいかわからないのではないか。

(委員) コミュニティセンターでもサークルが活動していると思うが、子どもと一緒に活動できるようなサークルはないのか。

(委員) 茶道や生け花のサークルなどが考えられるがどうか。

(委員) 提言の中に今の一例を入れてもよいのではないか。

(委員) コミセンの活動団体に対し、学習センターのように子どもたちと触れ合えるような取り組みをしてもらえるような仕組みづくりをするというのも一つの方策ではないか。

(委員) 自分たちの活動だけでなく、子どもたちと触れ合うことで、お互いにいいことがあるのではないかと思う。今までコミセンのサークルにはそのような刺激はあまり無いと考える。そういうきっかけを提案するのも社会教育委員の役割ではないか。

(議長) どのように追加するか、事務局と検討する。

(委員) 提案3の具体的な方策に、「活性化会議など」と1つだけ記載されているが、もう1つか2つ追加してはどうか。

(議長) 母親クラブ、市P連などは入れてもいいかもしれない。

(委員) 子ども会が入ってもいい。

(議長) 内容について、他にも気になる点があれば、12月末までに事務

局へ連絡していただきたい。

(市) 家庭教育自体に関心を持っている人とそうでない人がいる。関心を持っている人は講座に出てくるが、興味がない人は来ない。循環型の家庭教育支援というのは、講座等で意識を高め、意識を高めた人が指導者になり、その指導者が関心のない人を引き込むということが続いていくようなイメージだと思っている。そのような要素はこの文章の中に入れてほしいと思っている。今回行った家庭教育支援講座は指導者養成ではなく、関心者に家庭教育の大事さを伝えるということが主になっているので、その点を踏まえて来年度どのようにやっていくのかを議論していただきたい。

(委員) 活性化会議について、こども・青少年課長にお聞きしたい。会長会でそれぞれの地区の実績報告をする機会があると思うが、会長以外のメンバーは他の地区がどのような活動をしているのか知る機会がない。例えば研修会の中で各地域の発表の場があったほうがいいのではないかと考えるが、どうか。

(市) 基本的には会長会で行われている各地区の報告を地区の方に情報提供していただきたいと思っているが、実際に各地区でどの様に報告されているかは把握していない。

(委員) 活動している人の生の声が聞きたいという声もあるのではないかな。

(市) 今まではそのような機会は設けてこなかった。今のご意見を受け、今後我々から働きかけていくということとはできないことではないと考える。

(議長) 本日の議題は以上となる。では、次回会議の日程について事務局より説明をお願いしたい。

(市) 次回、第4回定例会を2月に行う予定である。

① 17日(金) 午後3時から

② 20日(月) 午後3時から

③ 21日(火) 午後3時から

④ 22日(水) 午後3時から

⑤ 24日(金) 午後3時から

以上の候補日から選んでいただきたい

(議長) 全員出席できる17日(金)としてよいか。

(委員) 異議なし。

以上で議事を終わる。

<閉会>

会議資料

- ・令和4年度第3回社会教育委員会議定例会(第32期)次第
- ・第32期大和市社会教育委員名簿
- ・生涯学習振興補助金(令和4年度事業分)選考結果について
- ・令和4年度社会教育委員に関する研修会等
- ・令和4年度事業実施結果報告書
- ・令和元年度の各地区の活動状況(コロナ禍前の活動)について
- ・「家庭教育支援」に関する提言(素案)